

## サイバーボランティア活動で愛知県警に協力 社会貢献度が評価され、学生部長賞を受賞

インターネットなどサイバー空間における防犯活動を行う、国際情報学部国際情報学科学部メディアスタディーズコース(旧現代文化学部情報文化学科)のサイバー防犯ボランティア活動(以下、サイバーボランティア)。愛知県警から現代文化学部情報文化学科・長谷川元洋先生のもとに協力依頼があり、2012年から長谷川ゼミの学生を中心に活動しています。主な活動は「街頭における広報啓発活動」「サイバーパトロール」「サイバー犯罪防止講話」の3つで、その功績が高く評価され、一昨年度、昨年度と2年連続で、本学学生に対し、愛知県警から感謝状が贈られました。

こうした課外活動によって、3月には2013年度の学生部長賞を受賞。先輩方の輝かしい実績を励みに、2014年度のメンバーも意欲的にサイバーボランティア活動に取り組んでいます。

「街頭における広報啓発活動」はチラシ配布が主だった活動です。「なかなか受け取ってもらえなかったり、一緒に入ったティッシュ目当ての人もいて、啓発も簡単ではありません。でも駅前などで幅広い世代に配布することで、保護者に対しても啓発できるため、被害抑止に少しでも役立つ」と、参加メンバーは言います。

毎週火曜日はお昼休みを利用し、「サイバーパトロール」を行っています。「インターネット上の違法サイトを探索していますが、普段は見ることのないサイトを見つかるたび、ネットの危険性を実感します」と、代表の橋爪智さん。長谷川先生も、「犯人逮捕に繋がらなくても学

生自身の注意喚起になりますし、親になったとき子どもにネット上の危険を伝えることができます」と話します。

最も力を入れているのは「サイバー犯罪防止講話」です。昨年、インタビューに応じた学生は守山区内の公立小学校へ出向き、ほかの学生は名古屋市や小牧市などの学校に出向いて講話を行いました。中心となった藤林さんは、「高学年になると携帯を持ちはじめの子やパソコンでゲームをする子が増えはじめ、インターネットが身近なものになってきます。ですから、他人にパスワードは教えないといった初歩的な話から、ネットの危険性を伝えました」と語ってくれました。子どもたちが飽きないように、〇×形式のゲームを講話に交えながら、ときには「何でだと思う?」と問いかけをして取り組みました。長谷川先生は、「県警の方々が行うのとはまた違った、女子大生の観点からの講話ができたと思います。クイズを取り入れるなど、楽しさを交えた発表は子どもたちの理解にも繋がります」と話します。

現在は代表の橋爪さんを中心に、春日井市の公立中学校での講話に向けてメンバー全員でプレゼンテーションの準備をしています。「中学生にSNSの正しい利用法をスライドで解説する予定です。ネット炎上をテーマに、少年がアルバイト先のアイスクリームケースに入った写メをSNSに投稿した例を用



いて、少年が店側に支払うべき賠償金はいくらかなどをクイズにします」と橋爪さん。やっちはダメというだけでなく、やったらどうなるかもきちんと伝え、子どもたちの危険回避に繋げることが狙いです。

「教職課程の学生にとっても、一般企業に就職する学生にとっても、大勢の人間で話すことはいい経験に。この活動を通して、社会に貢献するという意義も学んでほしいですね」と、長谷川先生。サイバーボランティア活動によって少しでも被害や犯罪が減るよう、学生たちの努力は続いていきます。



プレゼンテーション練習の様子

## 「愛され育ち合う」幼稚園 —縦割り保育—

当園の特色の一つ、縦割り保育についてお伝えしたいと思います。

今年度、60人のかわいい年少児を迎えました。各クラス12人の年少児が仲間入りし、例年以上に賑やかです。一つずつ大きくなった年上児も年少児が入園してくることを楽しみにしていました。異年齢児がともに生活する縦割り保育ならではのエピソードを、いくつかお伝えします。

### エピソード1

#### 「お弁当を食べようとしたところ…」

食事の時間に、ある年少児がお弁当の蓋を開けようとしたところ「かた〜い!」とのつぶやきが…。隣で座っていた年上児が「開けようか?」と声をかけ開けてくれました。この年上児のさりげない心遣いに感動!!それからその年少児は蓋を開けてくれた年上児のことが大好きになりました。



仲良しの友だちとお弁当を食べています

## —共育の場—

幼稚園は子ども・保護者・保育者が互いに学び、支えあってともに育ちあう場所でありたいと考えています。そのためには、幼稚園と保護者との連携が密接であることが必要であり、それが金城学院幼稚園の特徴の一つと言えるでしょう。

具体的なこととして登降園方法があげられます。保護者の方々による送迎によって子どもとのふれあいの機会になるだけでなく、保育者とのコミュニケーションをとる機会が自然と増えていきます。それによって保護者は日ごろの様子がよくわかり、幼稚園生活が子どもだけのものではなく、共有するものになっていくのです。

有志親子による園庭ワークでは保護者同士楽しくおしゃべりしながら園庭整備をすること

### エピソード2

#### 「虫取りが大好きになって…」

この時期大勢の子どもたちが虫取りをしています。年少児はとにかく虫を捕まえて箱の中に入れて喜んでいきます。その様子を見た年上児が「そんなんじやあ、虫が死んじやうよ。土を入れて、この虫にはこの葉っぱを入れて…」と教えてくれました。その年上児も1、2年前まではこの年少児と同様の姿でした。自分が教えてもらったように今度は年下児に教え、大切なことが子どもから子どもへと受け継がれていきます。

### エピソード3

#### 「年上児から年下児への言葉がけはすばらしい!」

外で遊ぶことが大好きな子どもたち。年少児が「お外に行ってみよう〜!」と元気に園庭に遊びに行きました。しかしあることに気づいた年上児が「何か忘れてるものなあい?」と声をかけてくれました。するとその年少児は「あっ!」と気づき、帽子を部屋に取りに戻りました。「帽子を被っておいで」というのではなく、年下児が考えられるような言葉をかけてくれたことが本当にすばらしいと思いました。

日々このような子どもたちを見ていると、異年齢児同士様々なことを学んでいると感じます。兄弟のように育ち合いながら、年下児は年



虫とりの様子



年少児が跳びやすいように年上児が縄を動かしているところ

上児に甘えたり憧れの気持ちを抱くようになり、年上児は我慢したり譲ったり受け入れたりしながら、気持ちや心が育っていきます。新年度はまだまだはじまったばかりですが、互いにかかわり合いながらこれから子どもたちがどのように成長していくのかとも楽しみです。

で、子どもたちだけではなく保護者の方々の関係が広がり、家族間の交流もみられます。また子どもにとっても、父親のたくましい姿を目の当たりにして新たな父親像を描くことができ、個々の育ちに繋がる機会になっています。それ以外にも保護者・保育者が一緒に整備することで子どもたちの遊びが紹介でき、その成長を喜び合うこともできます。

さらには「〇〇〇父さん」「〇〇〇母さん」と名づけられた形で、実際の保育現場で保護者の方に参加していただくことがあります。自然な形で多くの子どもたちと接することで、我が子とのかかわりだけでは気づくことのできない子どもの心情や子ども本来の育つ力にふれることができます。それがより深く子どもを理解し、子育ての参考になっていくのです。

近年、子どもを取り巻く社会状況は目まぐるしく変わっています。母親就労率の高まりにより、子どもを園に預けるだけになりがちですが、当園では左記のように保護者が保育に参加する機会をあえて持っています。それは保護者が子育てに孤独を感じず、みんなで育てていくという感覚を持って、安心して子どもとかわれるようにと願っているからです。またイクメンという造語も聞かれる中、父親が子育てのおもしろさを体感できるようにと保育に参加できる機会をもっています。幼稚園が、それぞれが存在の大切さを育て、高めていく場であるためにも保育者と保護者がかわりあいながら、子どもとともに育ち合える『共育の場』であり続けたいと思います。

## 自らの体験や思いを豊かに表現し、 読書感想文コンクール最優秀賞に

昨年行われた私学読書感想文名古屋コンクールで、現在高校1年生の飯島瑞乃さんがⅡ類(小説以外のジャンル)の最優秀賞を受賞しました。

受賞作は飯島さんが中学3年生のときのクラスの読書会で選ばれた「16歳 親と子のあいだには」の感想文です。多くの16歳の男女にインタビューを行い、思春期である16歳の親とのつきあい方や関係のバランスをまとめたこの本を読んで、「親とのつきあい方が変わりました」と飯島さんは話します。「私も中学2年生のころは反抗期だったと思います。進路や自分の生き方についてさまざまな思いを持っていました。でもこの本を読んで、反抗期は誰にでもあることなのだと思えました」と共感を覚え、感想文を書いたと言います。

感想文を書いたと言います。

飯島さんは小学校6年生のときにハリーポッターシリーズを読んでから本が好きになりました。普段から小説をよく読むと言い、「今は村上春樹とヘルマン・ヘッセが好きです」と話します。特にヘルマン・ヘッセは出版社ごとに翻訳や書き出しが違うことに注目し、「ひとつの事柄の描写について、さまざまな言い回しや表現方法があっておもしろい。いろいろな出版社の本を読み比べて楽しんでいます」と一つの作品について多角的に分析することを実践しています。また「本の世界は自分が体験したことのないことでも、体験できるのが楽しい」と、本を読みながら限りなく広がる空想の世界も楽しんでいるそうです。



電車での通学時間を利用して、本を読んでいる飯島さん。月に約二冊のペースで読書をし、学校の図書館もよく利用します。「小説以外では、理系の本も好きです。ニュートンはよく読みます」と話し、「将来、理系の大学へ進んだら、また今とは違った本に出会ってみたい」とも言います。今後も多くの本からさまざまなことを学び、豊かな感性と生きる力を身につけてほしいと願います。

### 原文掲載

「普通は特別に」  
十六歳 高校一年生から二年生にかけての時間。誰もが未来の不安と期待と色々な事への反発心、現実と理想のギャップに押しつぶされそうになる。親も子供もお互いの依存から少しずつ切り取られ不安定にも自分の足で立ち上がろうともがき悩む。の。だろ。う。私はまだ経験していないから分からない。だが、少なくともこの本で読んだことにより私の認識する十六歳のイメージは変わった。その大人達は皆、特別に普通だったのだ。特別な時間を特別に過ごした共通が、普通が生きてきた。とのお話も弾んで生きたるに満ちた文だった。この形こそ本に必要で、自然な形なのだと思解した。

本の冒頭部分に  
「十六歳前後という皆さんの年頃は、そういった親との関係を落着かせていく時期にあるのではないだろうか。」  
という一文がある。このような一般的な十六歳の成長と比べると私の十六歳はさか異質なものになるだろうと予想している。なぜなら、私と親との関係は既にものまて落ち着いて風いだものだからだ。

私の反抗期は二度過ぎた。一度目は小学四年生から六年生前後にかけて、反抗している意識は無かったのだが、ちょうど兄が寮に入り母の小言が全て私に向けられるようになり、また、受験勉強のために満足に遊ぶまわれなうな女トレスから父と母の自分で理解できないイライラが募った。暴言を吐いてみたり物に当たってみたりと、とにかく一杯だ。そして、二度目は中学一年生の頃だった。進路と生き方に悩み特別な人間になりたくて特別でない人間は本当は生きている意味すら無いのではとまで考えた。思考は沼のように深く足をつかみ悲しく泣き続けてわと湧き出てくるメラコリーの甘い汁をすすっていた。

そうしている自分が印を持った特別な人間になれた気がした。親も友達も誰も知らない気持ちと昏問の明るく振舞う顔、態度の下に隠して人とは違っている勘違いも甚だしい優越感を楽しまれていた。私の反抗力は世界が広がっていくにつれて炭のように赤く燃え上

「普通は特別に」  
十六歳 高校一年生から二年生にかけての時間。誰もが未来の不安と期待と色々な事への反発心、現実と理想のギャップに押しつぶされそうになる。親も子供もお互いの依存から少しずつ切り取られ不安定にも自分の足で立ち上がろうともがき悩む。の。だろ。う。私はまだ経験していないから分からない。だが、少なくともこの本で読んだことにより私の認識する十六歳のイメージは変わった。その大人達は皆、特別に普通だったのだ。特別な時間を特別に過ごした共通が、普通が生きてきた。とのお話も弾んで生きたるに満ちた文だった。この形こそ本に必要で、自然な形なのだと思解した。

本の冒頭部分に  
「十六歳前後という皆さんの年頃は、そういった親との関係を落着かせていく時期にあるのではないだろうか。」  
という一文がある。このような一般的な十六歳の成長と比べると私の十六歳はさか異質なものになるだろうと予想している。なぜなら、私と親との関係は既にものまて落ち着いて風いだものだからだ。

私の反抗期は二度過ぎた。一度目は小学四年生から六年生前後にかけて、反抗している意識は無かったのだが、ちょうど兄が寮に入り母の小言が全て私に向けられるようになり、また、受験勉強のために満足に遊ぶまわれなうな女トレスから父と母の自分で理解できないイライラが募った。暴言を吐いてみたり物に当たってみたりと、とにかく一杯だ。そして、二度目は中学一年生の頃だった。進路と生き方に悩み特別な人間になりたくて特別でない人間は本当は生きている意味すら無いのではとまで考えた。思考は沼のように深く足をつかみ悲しく泣き続けてわと湧き出てくるメラコリーの甘い汁をすすっていた。

そうしている自分が印を持った特別な人間になれた気がした。親も友達も誰も知らない気持ちと昏問の明るく振舞う顔、態度の下に隠して人とは違っている勘違いも甚だしい優越感を楽しまれていた。私の反抗力は世界が広がっていくにつれて炭のように赤く燃え上

「普通は特別に」  
十六歳 高校一年生から二年生にかけての時間。誰もが未来の不安と期待と色々な事への反発心、現実と理想のギャップに押しつぶされそうになる。親も子供もお互いの依存から少しずつ切り取られ不安定にも自分の足で立ち上がろうともがき悩む。の。だろ。う。私はまだ経験していないから分からない。だが、少なくともこの本で読んだことにより私の認識する十六歳のイメージは変わった。その大人達は皆、特別に普通だったのだ。特別な時間を特別に過ごした共通が、普通が生きてきた。とのお話も弾んで生きたるに満ちた文だった。この形こそ本に必要で、自然な形なのだと思解した。

本の冒頭部分に  
「十六歳前後という皆さんの年頃は、そういった親との関係を落着かせていく時期にあるのではないだろうか。」  
という一文がある。このような一般的な十六歳の成長と比べると私の十六歳はさか異質なものになるだろうと予想している。なぜなら、私と親との関係は既にものまて落ち着いて風いだものだからだ。

私の反抗期は二度過ぎた。一度目は小学四年生から六年生前後にかけて、反抗している意識は無かったのだが、ちょうど兄が寮に入り母の小言が全て私に向けられるようになり、また、受験勉強のために満足に遊ぶまわれなうな女トレスから父と母の自分で理解できないイライラが募った。暴言を吐いてみたり物に当たってみたりと、とにかく一杯だ。そして、二度目は中学一年生の頃だった。進路と生き方に悩み特別な人間になりたくて特別でない人間は本当は生きている意味すら無いのではとまで考えた。思考は沼のように深く足をつかみ悲しく泣き続けてわと湧き出てくるメラコリーの甘い汁をすすっていた。

そうしている自分が印を持った特別な人間になれた気がした。親も友達も誰も知らない気持ちと昏問の明るく振舞う顔、態度の下に隠して人とは違っている勘違いも甚だしい優越感を楽しまれていた。私の反抗力は世界が広がっていくにつれて炭のように赤く燃え上

## 2013年度卒業生の進路状況

金城学院大学へは215名が進学  
外部受験では名古屋大3名や早稲田大6名、  
南山大54名など近年では最高の合格実績

今年度の金城学院大学への進学者数は、内部推薦者199名に一般推薦・受験での進学者16名を加えて計215名(卒業生全体の59.2%)で、内部推薦での生徒は、一部を除きほとんどが第1希望の学科に進学をしていきました。

外部受験コースでは、国公立大学への現役進学者数が東京芸術大1名・九州大1名・名古屋大3名・愛知県立大2名など例年より増え、久しぶりに2ケタに達することができました。

有名私立大学へも早稲田大6名をはじめ、東京理科大5名・青山学院大4名・明治大3名・東

京女子大6名・同志社大16名・立命館大18名・南山大54名・愛知医科大(医)2名・藤田保健衛生大(医)1名・愛知学院大(歯)6名など、こちらも例年以上に多くの合格者を出すことができました。

また今年度からスタートした「同志社女子大学との協定校推薦制度」を利用し、5名が、「関西学院大学との協定校推薦制度」で11名の生徒が推薦され、各大学へ進学をしていきました。卒業生の今後のご活躍をお祈りしています。

国公立大	12
私立大	104
金城学院大	215
国公立短期大	0
私立短期大	1
専修・各種学校	3
就職	2
進学準備	26
海外留学	0
卒業生総数	363

(進学者実数)

# 第19回 全国私立大学 附属・併設 中学校・高等学校 教育研究集会の開催校に金城学院高等学校が選出

探究力を身につけた人間を育む  
～自立と共生をめざして～

第19回 全国私立大学 附属・併設 中学校・高等学校 教育研究集会が2014年10月31日(金)・11月1日(土)に金城学院高等学校で開催されます。金城学院高等学校が開催校に選ばれるのははじめてのこと。

今回の教育研究集会は「探究力を身につけた人間を育む～自立と共生をめざして～」をテーマに、2日間の日程で行われます。初日は総会、研究授業、研究授業の協議、開会行事、姜尚中氏による記念講演。2日目は各分科会と生徒発表が行なわれます。

聖学院大学学長・姜尚中氏の記念講演は「心の力」と題し、夏目漱石「こころ」から姜尚中氏が受けた感銘を軸に、教育を考える講演が予定されています。

※一般会場につきましては原則受付をしておりません。詳しくは事務局又は金城学院高等学校へお問い合わせ下さい。

### 研究授業

※以下の教科の授業(予定)

- 英語科(中学校)     ○国語科(中学校)
- 総合的な学習の時間(Dignity)(中学校)
- 理科(中学校)     ○家庭科(高等学校)
- 地歴・公民科(高等学校)
- 地歴・公民科と英語科の合科  
(World Studies)(高等学校)
- 数学科(高等学校)   ○情報科(高等学校)

### 生徒発表

1. Dignity(総合的な学習の時間)のプレゼンテーション
2. 語学研修旅行について
  - ① アメリカ語学研修旅行
  - ② イートンカレッジサマースクール(イギリス)
3. パイプオルガン演奏
4. ハープアンサンブル演奏
5. グリークラブ(合唱)演奏

### 分科会

- (1)「学校に勇気と元気を解発する学校評価」  
名城大学大学院 大学・学校づくり研究科  
教授 木岡 一明先生
- (2)「高大連携の実践例」  
金城学院大学 学長補佐 国際情報学部  
国際情報学科  
教授 大橋 陽先生  
金城学院高等学校 教務課長 田中 武彦先生
- (3)「理系科目と探究力」  
名古屋大学 副研究科長  
附属中等教育研究センター長  
大学院教育発達科学研究所  
教授 大谷 尚先生
- (4)「ESD(持続可能な開発のための教育)の取り組み」  
上智大学 総合人間科学部 教育学科  
教授 田中 治彦先生
- (5)「本校の『探究力を育む授業』」  
Dignity(総合的な学習の時間)の取り組み」  
同志社女子大学 現代社会学部現代こども学科  
大学院国際社会システム研究科  
教授 藤原 孝章先生  
金城学院高等学校 カリキュラム研究部長  
柳瀬 公代先生

第19回 全国私立大学附属・併設中学校・高等学校 教育研究集会

## 記念講演『心の力』 姜尚中氏



希望の見つからない「豊かな国」。こう言うと、皮肉に聞こえるだろうが、  
ただし、その「豊かな」も少々、怪しくなり、新たな貧困や格差が広が  
りつつある。  
そうした中、「アヅー」の「平均的な」学生たちの心には不安の影が  
さし、  
同時に「何のために」努力し、生きていかなければならないのか、  
その動機付けが希薄になりつつある。講演では、そうした若者たちの  
心の「空模様」を読み解き、「心の力」をつけるヒントを考えてみたい。  
—姜氏 談

姜尚中(カン・サンジュン) Kang Shoung Jung  
1950年、熊本県熊本市に生まれる。国際基督教大学教員、東京大学  
大学院経済学専攻・学際情報学専攻を経て、現在聖学院大学学  
長、東京大学客員教授、専攻は政治学、政治思想史、ラベロ・新聞・機  
能などで幅広く活躍。主な著書に『マックス・ウェーバーと近代』、『オリ  
エンタルの東方』、『フョナタマ』、『東京アジア共同の家をめざし  
て』、『唯我独尊 日韓関係の発展』、『在日』、『東洋の政治学入門』、『ソ  
ン・ハル・ソク』、『愛国の作法』、『福むか』、『リーダーは半歩進歩を  
待たせ』、『あなたは誰？私にこころ』、『福むか』、『リーダーは半歩進歩を  
待たせ』、『フョナタマの発展』、『ア・マ・ソク』、『戦争の歴史を継  
ぐ』、『大日本・東洋の歴史』、『福むか』、『在日』、『東洋の政治学入門』、  
小説『第一号』、『心』など。最新刊『心の力』。

日時: 2014年10月31日(金)15:00 ~ 16:30  
場所: 金城学院高等学校 栄光館  
(登録有形文化財)

〒461-0011 名古屋市東区白壁4-64 TEL. (052)931-6226 URL: http://www.h.kinjo-u.ac.jp

・市営バス 「名古屋駅」または「栄」乗車、四軒家行き または  
光が丘、築港線行き(高砂)市役所経由「白壁」下車  
・名鉄バス 「名鉄バスセンター」乗車、山崎線市役所経由「白壁」下車  
・市営バス 「大宮線」乗車、白壁線 名古屋駅行き(名鉄)「白壁」下車

・名鉄バス 「名鉄バスセンター」乗車、山崎線市役所経由「白壁」下車  
・地下鉄有線バス 「市役所」下車(東へ徒歩10分)  
・地下鉄有線バス 「高砂」下車(北へ徒歩10分)

### Dignity(総合的な学習の時間) 金城学院の「Dignity」は、探究力を育成します。

生徒は、高2になるとグループ研究、そして高3では個人研究に  
挑み探究力を養います。研究体験を通して養われた探究力は、大学  
で本格的にはじめる研究活動へのスムーズな移行を可能にします。  
高校での研究活動に備えて、中学生はまず、自分を取り巻く社会  
に目を向け、視野を広げていきます。中学生は、社会の一員としての自分に気づき、中2、中3で環境  
や平和について考えます。そして、自分たちの考えたことを発信することを通して、より大きな社会へ  
と目を向けていきます。

中学校で育てた社会への関心を活かして、高校生になると、いよいよ探究力の育成がはじまります。  
高1は、研究をするための基礎力を養うため、岩波ブレットのテキスト批評を行います。著者の問  
い、主張とその根拠を読み取り、著者の主張に対する賛否の意見を、根拠を添えて発信します。高2は、  
高1で習得したスキルを使ってグループ研究に、高3は個人研究に挑戦します。研究活動で生徒は、次  
の5つのプロセスを体験します。①リサーチ・クエストを設定する。②仮説を設定する。③仮説の検  
証方法を考える。④リサーチをする。⑤リサーチで収集した情報を分析・評価し、リサーチ・クエス  
ションに答える。

研究成果は、クラスプレゼンテーション、クラス代表チームによる学年プレゼンテーションで発信し  
ます。学年プレゼンテーションには、毎年、金城学院大学や他の大学の先生方、岩波ブレット編集部  
や新聞社の方々に審査員としてお招きし、評価をしていただいています。

中 学 校	
中1	共に生きる：新しい学校生活～自分に気づく～
中2	情報社会を生きる：情報発信～私たちのPRしたいこと～
中3	平和を実現する～そこには人がいる～
高 校	
高1	生き方を探る～自立・自律・進歩する人として～
高2	基礎：探究力を養う
高2	展開：グループ研究
高3	小論文：個人研究

審査員の先生方の声

「貴校の生徒さんたちが、世の中について学び考える大切さと楽しさに目覚めていることに深い感銘を受けました。」  
「各クラスの代表選抜発表とは異なり、大学生の初年次教育を強くクア  
リしているクオリティの高い発表をみていただきました。また、この成  
果を引き出すためのカリキュラム、教員の組織化、指導助言などのプロ  
セスにも興味をもちました。テーマがよかったか、プレゼンの仕方が  
よかった、とかではなく、きちんと研究のスキルをつけるための到達目  
標があり、個別のスキル目標が示されているのが、大変いい仕掛けとな  
っていると思いました。」  
「非常に興味深く、時間を忘れて聞き入ってしまいました。プレゼンテ  
ーションスキルはかなり高かったと思います。内容面につきましても、  
アンケートや統計の使い方、分析の仕方などの方法的な面、結論まで  
の論理の組み立てが弱いところもありましたが、高校2年生ということ



2012年度優秀チーム  
「花子は絶滅するのかわ?」スライドの一部



～調査結果～